

令和6年度前期 高大連携授業 授業計画書

■従来型授業

□単位取得予約型授業

実施形態	対面授業	大学等名	秋田県立大学 秋田キャンパス
科目名 (サブタイトル)	[28] 生物環境科学への招待	科目担当者 (学部・学科・職・氏名)	生物資源科学部 生物環境科学科 教授 石川 祐一 (計4名)
授業概要	秋田の身近な地域から地球規模に広がる自然環境や生物資源の問題をフィールドに密着しながら発見し、生物資源の人間生活（農林業など）への活用と保全、自然環境の修復と再生などに取り組む生物環境科学を紹介します。		
授業方針	基本的に、パワーポイントの投影資料による授業です。		
会場・教室	秋田県立大学 秋田キャンパス A211		
会場住所	秋田市下新城野字街道端西241-438		
欠席連絡先	秋田県立大学 秋田キャンパス アドミッションチーム (平日9:00~17:00) 電話: 018-872-1535 E-mail: hirameki-tokimeki@akita-pu.ac.jp		

授 業 計 画

【募集定員人数：20名】 先着順で募集を締め切ります

第1講：「環境負荷を減らした農業は可能か？」 教授 佐藤 孝

＜6月22日(土)9:30~11:00＞

現代農業では化学肥料や化学農薬を多用しており、それらは環境負荷の要因にもなっています。本講義では、作物生産において植物や微生物の能力を生かして環境負荷を低減する方法について解説します。

第2講：「COVID-19への各国の対策とその効果」 准教授 小西 智一

＜6月22日(土)11:10~12:40＞

各国政府はCOVID-19に対し様々な対策をとり、その結果も大きく異なった。これを俯瞰して今後の糧にする。

第3講：「秋田で地域経済循環を考える」 准教授 中村 勝則

＜6月22日(土)13:20~14:50＞

地域経済循環とは何か、なぜ重要なのか。生物環境科学とどう関わるのかを解説します。その上で、身近な秋田を題材に、これから循環を取り戻していくためにはどんなことが必要なのか受講者と一緒に考えていきます。

第4講：「森の営み：どうやって調べ、どんなことがわかるのか」 教授 星崎 和彦

＜6月22日(土)15:00~16:30＞

天然林では、木々の一本一本が毎年成長し、やがて花や実をつけ、いずれ死ぬという営みが、毎年繰り返されています。本講義では、そんな「木の一生」の調べ方を紹介し、その結果を現代の森林の環境問題に関連付けて考えます。

その他	
テキスト	
参考文献	
関連科目	